

第1・2学年ふじ組 国語科学習指導案

指導者 古賀 智 治

題材 「ごっこあそびを しよう! ～おみせやさんで おかいもの～」(「聞くこと・話すこと」)

本題材の考え方

- 本学級の子供たちは、1年生3名、2年生2名で構成されている。これまでに、文章中の名詞を聞いたり名詞を使った依頼要求をしたりする経験をしてきている。本題材における個々の実態は以下の通りである。

a児	b児	c児	d児	e児
聞いたことを真似しながら言うことが得意である。2つ以上の複数の話の内容を聞き取ることはやがや、応答することがある。	擬音語を使って物の特徴を話すことができる。尋ねられたことに対して適うことを応答することがある。難しいことがある。	話をするのが好きで、疑問に思ったことを尋ねることができる。教師に対して尋ねることが多く、友達に対して尋ねることは少ない。	休みの日の出来事を話すことが好きである。相手の話を最後まで聞いて、自分の考えを相手に分かりやすく話すまでには至っていない。	尋ねられたことに対して名詞や指さしで応答することができる。興味のないことに対しては尋ねられても正しく応答しないことがある。

- 本題材では、このような実態の子供たちに応じて、お店屋さんごっこの遊びを通して、相手の言葉を受けて話したり聞いたりすることをねらいとしている。本題材には次の3つの価値がある。①お店屋さんごっこという日常場面に即した活動により、生活で出会う言葉を学習で生かすことができること、②状況や場面等を設定することで、ねらいに応じた言葉のやりとりができること、③それぞれの役割を果たすことで、言葉で思いを伝えることができたよさを実感できることである。本題材は子供がごっこ遊びに夢中で取り組む中で、ねらいに応じた言葉のやりとりを積極的に行うことができる上で意義深い。
- 本題材の動機段階では、実際にお菓子屋に行き、店員と客の様子から、相手の話を聞いたり話したりするといった言葉のやりとりをするに関心をもつことができるようにする。熱中段階では、メニューの種類や具材が徐々に増えていくピザ屋、カレー屋、うどん屋のお店屋さんごっこを通して、話を伝える目的意識(何のために伝えるか)、場面意識(どんな状況か)、方法意識(どんな言葉を使うのか)の視点を持ちながら自分の思いを伝える方法を捉えることができるようにする。発展段階では、これまでの学びを生かして、3つのお店屋さんの中から好きなお店で買い物をするごっこ遊びをすることで、本題材を通してできるようになったことを子供自身が自覚することができるようにする。

本題材の目標 (3 資質・能力)

- 注文を聞こうとしたり、相手と言葉のやりとりをしたりしながら、ごっこ遊びに最後まで粘り強く取り組むことができる。(自発性)
- ◎ 言葉を使って思いを伝え合うことで、商品の注文をしたり注文を聞いたりすることができる。(自己発揮性)
- ごっこ遊びを通して、言葉のやりとりをすることができたことよさや達成感を味わうことができる。(成就性)

グループの目標 (重視する資質・能力【自己発揮性】)

- (G1) 相手の話を聞いて、返事をしたり、二語文による質問をしたりすることができる。
- (G2) 相手の話を聞き、聞いた内容に応じて行動することができる。
- (G3) 相手の話を最後まで聞き、聞き取った内容を確認することができる。

題材計画 (9 時間)

題材における活動・内容・手立て	
1	学校の近くのお菓子屋の買い物を通して、店員と客が言葉のやりとりをすることに気付き、試しのごっこ遊びをする。 2 ○ お店屋さんのごっこ遊びをするために話を聞いたり話したりする必要があることに気付くこと ※ 店員や客の役に分かれて簡単な場を設定した試しのお店屋さんごっこの活動の設定
きいたことに あわせて はなしながら おみせやさんごっこを しよう。	
2	伝えたいことを話す言葉のやりとりの仕方について話し合い、話し合ったことを生かしながらかお店屋さんごっこをする。 6 (1) 客や店員に分かれて、1回目のピザ屋、カレー屋、うどん屋のお店屋さんごっこをする。 ③ (G1) 注文をする際に、返事をしたり質問をしたりする方法を捉えること (G2) 注文をする際に、話題にそって話したり聞いたりする方法を捉えること (G3) 注文をする際に、注文の内容を確認する方法を捉えること ※ 言葉のやりとりを円滑にするための言葉カードの提示 ※ メニューの種類が徐々に増えていく状況の設定
3	これまでの学習を生かしながらか、ピザ屋、カレー屋、うどん屋が入ったフードコートのお店屋さんごっこをする。 本時 1 ○ これまでの学習で身に付けた言葉のやりとりを基に、話をしたり聞いたりしたことの達成感を味わうこと ※ これまでの学習でできるようになったことを想起するための、お店屋さんごっこで用いた言葉カードの提示

本時の目標

- 店員や客の役に分かれて、ピザ屋、カレー屋、うどん屋が入ったフードコートのお店屋さんごっこに、最後まで粘り強く取り組むことができる。 (自発性)
- 相手を意識しながら話を聞いたり、聞いた内容に合うように話したりすることができる。 (自己発揮性)
- (G①) 相手の話を聞いて返事をしたり、二語文による質問をしたりする方法を捉えることができる。
- (G②) 相手の話を聞き、聞いた内容に合わせて話をしたり行動したりする方法を捉えることができる。
- (G③) 相手の話を最後まで聞き、聞き取った内容を相手に伝える方法を捉えることができる。
- 役割に応じて話を進めることで、相手と会話のやりとりができたことの達成感を味わうことができる。 (成就性)

本時の学習過程 (9/9時)

学習活動と内容			手立て
<p>1 役に分かれて要求や質問をすることで、相手を意識しながら話を聞いたり話したりするお店屋さんごっこの活動の学習のめあてについて話し合う。</p> <p>○ これまでに学習してきた聞き方や話し方を用いて学習の見通しをもつこと</p>			<p>1 本時の活動に見通しをもたせるための支援</p> <p>※ 学習の見通しをもつことができるようにするための既習のごっこ遊びの動画の提示</p>
<p>2 フードコートのお店屋さんごっこで、4枚のチケット(遊び①②でそれぞれ2枚使用)を使って商品の食べ物を買ったり売ったりするごっこ遊びをする。</p> <p>(1) 2枚のチケットを使った試しの遊び①を行い、お店屋さんごっこに必要な言葉について話し合う。</p>			
G①(e児)	G②(a児・b児・c児)	G③(d児)	<p>《グループ①》</p> <p>※ やりとりで使う言葉を視覚化できるようにするための、質問とその答えを記述してホワイトボードに貼ることができる言葉カードの提示</p>
<p>○ ごっこ遊びをするために必要な相手の話を聞いて返事をしたり質問をしたりする方法を捉えること</p>	<p>○ ごっこ遊びをするために必要な相手の話を聞き、聞いたことを基に話したり対応したりする方法を捉える</p>	<p>○ ごっこ遊びをするために必要な相手の話を遮らずに聞いたり聞き取った内容を話したりする方法を捉えること</p>	
<p>【客の場合】</p> <p>e児(班長)</p> <p>課題: わからないときに たずねていない。</p> <p>使える言葉: どこで たべたらいいですか。ここを つかっていいですか。</p>	<p>【客の場合】▲店に行つてすぐに、自分のことを話す</p> <p>c児(班長)</p> <p>課題: さいしょに はなしを きいていない。</p> <p>使える言葉: ○○はありますか。はい、あります。どうぞ。</p>	<p>【店員の場合】</p> <p>d児</p> <p>課題: さいごまで ききとることが できていない。</p> <p>使える言葉: もういちど いってください。くりかえして いいです。</p>	<p>《グループ②》</p> <p>※ 店員役と客役の言葉のやりとりの様子を振り返ることができるようにするための、お店屋さんごっこをしている時の様子を撮影した動画の提示</p>
<p>(2) 残りの2枚のチケットを使い、(1)で話し合ったお店屋さんごっこに必要な言葉を用いながら、確認の遊び②を行う。</p>			
G①(e児)	G②(a児・b児・c児)	G③(d児)	<p>《グループ③》</p> <p>※ 相手の話を聞きもらさずに最後まで聞くことを意識することができるようにするための、書き込みができるトッピングの具材を書いた注文用紙の提示</p>
<p>○ ごっこ遊びに必要な言葉を使って、相手の話を聞いて返事をしたり質問をしたりする方法を捉えること</p>	<p>○ ごっこ遊びに必要な言葉を使って、相手の話を聞き、聞いたことを基に話したり対応したりする方法を捉えること</p>	<p>○ ごっこ遊びに必要な言葉を使って、相手の話を遮らずに聞いたり聞き取った内容を話したりする方法を捉えること</p>	
<p>【客の場合】</p> <p>課題: わからないことをお店の人に質問することができました。</p>	<p>【客の場合】○相手の話を聞き、自分のことを話す</p> <p>課題: 相手の話を聞いてから話すことができました。</p>	<p>【店員の場合】</p> <p>課題: 最後まで話を聞いて、合っているか確かめることができました。</p>	
<p>3 これまでの学習で、相手の話を聞いたり自分の考えを伝えたりするために、頑張ったことやできるようになったことを発表する。</p> <p>○ お店屋さんごっこの学習を通して、相手と言葉のやりとりをすることができたことよさや達成感を味わうこと</p>			<p>3 本時の学習の達成感を味わわせるための支援</p> <p>※ 達成感をもつことができるようにするための教師による価値づけと称賛</p>

【本時求める子供の姿】

- (G 1) 相手の話を聞き、「分かりました」「はい」等の返事や、「○○いいですか」と質問ができる姿
- (G 2) 相手の話を聞き、状況に合った内容について尋ねたり、尋ねられたことに合わせて応えたりすることができる姿
- (G 3) 相手の話している時に途中で遮らずに最後まで聞き、聞き取った内容を確かめることができる姿